

ちくちく通信

2012年 秋号

発行：ちくちくの会 (<http://chiku-chikunokai.jimdo.com/>)



平成24年8月20日 現在
会員 55名で活動しています

25件の医療機関さまにお洋服・
型紙を寄付しています
(5月比 会員+10名、寄付先+4件)

交流会 ～報告とお知らせ～

【報告】 7月22日(日) 於 クレオ西部会館

今回は、4名の天使ママが参加してくださいました。
うち、お二人が初めての参加でした。勇気を出して、お声
をかけていただいたのだと思います。
ありがとうございました。

【お知らせ】 次回は11月を予定しています

～縫い物をしながら、天使ちゃんの話を楽しませんか～

交流会は、現在企画中です。

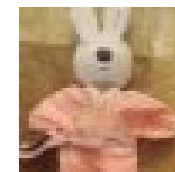
11月を予定しております。詳細が決まりましたらHPに
アップいたしますので、ご覧いただき、開催要項をご確認
の上、お申し込みください。

※参加人数に限りがあります

Facebook と Twitter に

アカウントが開設されました！

詳しくはHPを見てね。



第10回 あかちゃん こどもの死を考えるセミナー in 京都

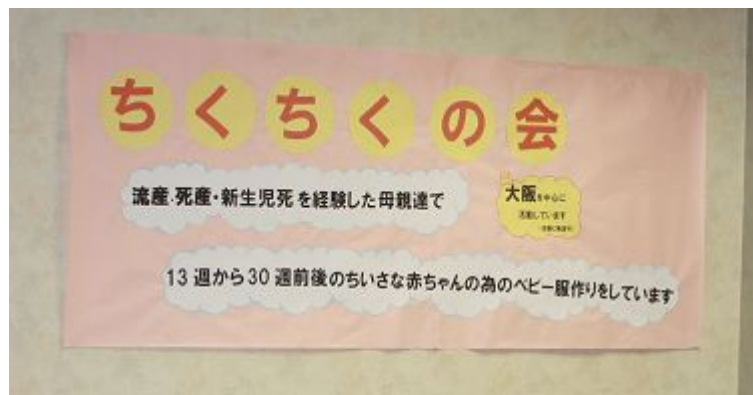
平成24年7月7日8日

今年も、ちくちくの会はセミナーにブース展示として参加させていただきました。

たくさんの方にお立ち寄りいただきました。 皆さん、ありがとうございました。 参加会員からの感想が寄せられていますのでご紹介いたします。



実際のお洋服や、活動の様子
を伝える写真パネル、パンフレット
などが準備されています



～ セミナーに参加して～

去年に引き続き、ちくちくの会のブースに立たせて頂きました。
途中から運営に参加した私でも、少しずつ声をかけてくださる方が増えてきたのがうれしかったです。
すばらしいご縁がこれからもつながっていきますように。

天使のブティックさんにお会いできたことが、個人的にはとても収穫がありました。
あかちゃんのためのお洋服、おむつ、帽子、ラッピング、メッセージカードなど、長く活動が続けておられるだけあって、細かなところまで考えられていました。かわいく、心のこもった品々は、お母さんたちの心をきっとあたたく包んでくれるのだろうと想像しました。
代表の方々ともお話しさせて頂き、先輩方の活動の偉大さを間近で感じることができました。
ちくちくの会も長く続けていけるよう、少しずつできることを増やしながら前進できたらと思います。

また、オープニングセレモニーでは、橋本昌彦さんの歌を聴かせて頂きました。
恥ずかしながら、どのような歌を歌う方なのか存じないままはじめて聴かせて頂いたので、お空の娘のことを思い出し、泣いてしまいました。
天使ママである自分が、セミナーに参加するということは、心を揺り動かされることなのだということを、このとき思い出したのです。
(ブースには立たせて頂いたのですが、セミナー自体に参加させて頂くのは、一昨年以来だったので、感覚を忘れていたのです。)
セミナーは自分の気持ちがいまどこにあるのかを、自分なりに確認する場なのだ改めて認識することができました。



来年もブースに立ち、自分の気持ちを確認し、ちくちくの会の活動が広がるようにがんばりたいと思います。

天使ママ・パパからの声（第5回）

「天使ママからの声」ということで、4回後紹介してきたこのページですが、今回、パパさんからの声をいただきました。

同じ親でも、こどもをお腹の中に宿し育み、少しずつ親になっていく母。その妻を間近で見ながら、誕生を楽しみに待つ父。こどもを愛おしく思う気持ちは同じでしょう。ただ、感情の表し方、接し方には違いがあるのかもしれない。我が子を見送った天使パパの思い。どうぞお聞きください。

～その日のことは鮮明に覚えています。

息子が生まれました。
予定よりも早く。あまりに早く。
まったく心の準備なんてできていませんでした。
初夏のつもりだったのに、真冬です。

緊急帝王切開の手術です。
病院からたくさんの書類を渡され、いっぱいサインしました。
ママのこともこの子のことも心配で、でも、待っているしかなくて、わけがわかりませんでした。
手術は無事終わって、保育器に運ばれるまでの間、少しこの子に会えました。
真っ赤で、小さくて、やせっぽちで、なんか別の生き物みたいだと思ってしまいました。
保育器に入っても、はだかんぼで、想像していた赤ちゃんとは違っていました。
体中にチューブがついて、痛々しくも感じていました。

でも、この子は、ぼくの気持ちが変わってくるだけの時間をくれました。

☆天使ちゃんの紹介☆

今回ご紹介する天使ちゃんは、お空に旅立って4年7ヶ月になる男の子です。ご夫婦待望の第一子でしたが、妊娠24週で緊急出産。2度の手術を乗り越えて、いっぱいがんばりましたが、14日後亡くなりました。



日に日に、いとおしくてたまらない対象に変わっていきました。

けれども、私たちみんなの願いとは裏腹に、この子は保育器から出ることなく、短い一生を終えました。



看護師さんが、この子を保育器から出して、特別に小さい子のための産着を着せてくれました。

その瞬間に、痛々しい感じが消えて、とてもかわいらしくなりました。

ぼくは、このとき、この子が赤ちゃんの仲間入りをした！と思いました。

それがうれしくて、看護師さんにありがとうを言いたかったのに、泣いてしまって

何もしゃべれませんでした。

てんとう虫の模様のある黄色の産着を着て、この子は、私たちの元から旅立ちました。

2回の手術に耐えたこの子を、ぼくは勇者と称えます。

黄色のてんとう虫の産着は、誇り高き勇者のシンボルです。～

※ご夫婦が病院からもらった小さい子のための産着。

それは、病院のスタッフが型紙を取り寄せ、作って用意してくれたものでした。

数年後、奥さんはちくちくの会に参加。

現在は、会の一員として活動されています。

ご主人も、そんな奥さんを応援してくれているとのこと。

編集後記

ちくちく通信 2012 秋号、お読みいただきありがとうございます。

暑かった夏を越え、9月に入って吹く風にめっきり秋らしさを感じるようになりました。みなさま、風邪など引かれていませんか？

今回は、セミナーの参加報告をアップしています。会では、出来る限り多くの皆様と触れ合うことができるよう、このような機会を大切にさせていただいています。今回も、多くの出会いがあり、大変感謝しております。

また、天使パパからの声、いかがだったでしょうか。会の運営同様、ちくちく通信も新たな試みを続けてまいりたいと思います。

みなさまからの積極的な意見もお待ちしております！